

News Letter

vol.07
2017. 11月号

毎月発行

今月のよっしー

来年度の臨床実習Ⅱに向けて、県内の医師会行脚がひと段落しました。ありがたいことに地域の先生方の多大なるご理解をいただきまして感謝しております。具体的な内容・日程について今後進めてまいります。

来年4月からの専門医一次募集は残念ながらゼロでした。気を取り直して、来月二次募集がありますのでそれに賭けて頑張ります。

今年も残りわずかです。気合を入れてやっていきましょう！



吉村 学教授

連載企画

臨床実習病院・診療所紹介「えびの市立病院」

えびの市立病院 院長 河内 謙介先生

えびの市立病院はえびの市唯一の救急指定病院(50床)であり、外科、内科、整形外科の計4人の常勤と、非常勤の循環器内科1人の診療体制で、当院の医療相談室の努力により重症例をお願いする隣の小林市内の病院や熊本県の人吉医療センター等と、退院後のサポートをお願いする市内外の老健施設や訪問看護ステーション等と連携を密に取りながらえびのの地域医療の一翼を担っております。ドクターコトー的な孤立無援の離島医療でもなく、コードブルー的な超カッコいい救命救急活動と



かするわけでもなく極めて地味な普通の一般診療をしておりますが、それでも学生さんたちはほんの些細なことに目をキラキラさせながら感動してくれています。ただ時々のだんごの横顔とあくびにはココロが折れそうになりますのでその辺は気を使ってもらえると助かります。最新医療機器もなく高度な医療技術など難しいことは教えられません、在宅と大きな総合病院とのハザマで地味に活動する総合医の背中をみて、あ、こんなお医者さんもいいかもという気持ちが芽生えてくれれば幸いです。



専攻医の声 “special ver.”



Prince of Songkla University (略称: PSU)

Dr.Phacharaphon Maneethanawat (Dr.Jack)

みなさん、こんにちは。私の名前はPhacharaphon Maneethanawatで、ニックネームはJackです。私はタイから来ました。タイにあるプリンス・オブ・ソンクラ大学で家庭医療研修3年目の研修を受けています。日本の家庭医療システムを知るため、宮崎大学の交換留学プログラムに参加しました。地方の病院や診療所が多くあり、日本の家庭医療を見るのに良い場所であるため、宮崎大学を選びました(11月6日～30日)。

宮崎県の多くの規模の医療機関、串間市民病院や宮崎市立田野病院、高千穂町国保病院、諸塚診療所で研修をしました(今後、日南にも行く予定)。外来診療や入院診療、保健師業務、カンファレンス、訪問診療などに参加しました。日本の保健システムも知ることができました。

病院の多職種や指導医、研修医、医学生から温かい歓迎を受けました。また、訪れた多くの病院で歓迎会を楽しみました。このプログラムに参加することは、私にとってとても楽しく面白いです。

最後に私に関わっていただいた皆さんに感謝し、「コープ クン クラップ」(ありがとうございます)と言いたいです。



オレゴン健康科学大学の家庭医療学講座を視察して その2

宮崎大学 医学部 地域医療・総合診療医学講座 講師 松田 俊太郎

9月23日から30日までのオレゴン研修では、都市部のみでなくて、600km以上離れた人口2万の小さな町の診療施設まで見学することができました。今回は、そこで見学した家庭医療教育について述べます。

家庭医療の定義は、簡単に言えば、その地域や患者を包括的にケアしていく医療のことです。日本の現在の専門医制度にあてはめれば、より近いのは総合診療、イメージ的には地域医療になると思います。最も驚いたことは、都市部だけでなく小さな町でも、それぞれの施設の家庭医療プログラム（3年間）に、毎年8名ずつ若手医師がマッチングしていくことで、その応募倍率は3～5倍だとお聞きしました！その教育の場となる施設の外来数はそれぞれ100～150名程度です。実際に実践している医療内容は、予防、医療、福祉まで多岐にわたっていましたが、日本の地域で頑張っている医師と実践している内容はそれほど変わりません。異なることといえば、お産に関わることは必須であることくらいです。日本ならば3～5名程度の熟練した医師が黙々と忙しく診察しているような施設が、若手医師や指導医が多数集まりの教育の場になっているのです。

日本では家庭医療を専攻する若手医師は決して多くないのが現状で、例えば内視鏡ができるとか、手術ができるなど、具体的に何らかの専門性を持った医師になることを目標にする傾向があります。アメリカでももちろん専門性を持つことを希望する若手医師も多数いるのですが、地域に密着して家庭医療を実践していくことを目標にする若手医師も多数いることがわかりましたので、振り返ってその理由について考えてみました。

そもそも大きく異なるのは、家庭医療における臨床、教育、研究およびリーダーシップを通して、患者や地域に貢献することが根底に流れていることです。具体的な医師からみるとイメージできる何らかの専門性と同様に、家庭医療も一つの専門性であり、ただ地域で医療を踏ん張って頑張ることと根本的に異なります。具体的には、身近な健康問題、例えば、禁煙に対するヘルスプロモーションや、肺炎球菌ワクチンの予防接種の推奨など、地域で医療を実践する際にでてくる課題を学問として医学的に考えて、しっかり論文にして世界に発信して

いることや、日常の疑問点を一つ一つ丁寧に解決していった、そしてしっかりその成果を形にしていく姿勢であり、学ぶべき点が多くあると思います。そもそもその場にいる医師の人数も日本の数倍で、先輩医師は若手医師の教育をすることをあたりまえのように実践していました。後輩に時間的にも余裕をもって、知識や技術を伝承していくその指導体制には、目からうろこ、でした。次に、お会いした医師の多くは、自然を楽しみ、自分の生活を楽しみ、その生活の場で医療を行っている、という印象を持ちました。10年、20年、それ以上の長い期間、その地域で生活をしている医師が多くいることが、その表れであろうと思います。そして、それぞれの施設には、毎年のレジデントの研修終了時の全員の記念写真が、額縁にいれて誇らしげに飾ってありました。それは30年以上の歴史があり、私はとてもうらやましく思いました。自ら選択した道を前向きに進んでいる若手医師のプライドの表れで、それが脈々と次の時代に引き継がれていること、伝統となっていることを感じさせるもので、これからの目標になると思います。



▲たくさんの指導医



▲小さな町（クラマスフォールズ）の医療施設

新カリキュラム・4年生地域医療実習スタート

今年度から新カリキュラムがスタートし、10月30日からいよいよ4年生の臨床実習が開始されました。5～6名が1班となり、地域医療実習（田野病院）1週間、県内医療機関1週間の合計2週間、緊張しながらも学生は頑張っています。外来実習（診察・処置・採血・予防接種実施含む）、病棟実習、訪問診療、訪問看護（含む小児在宅・絵本読み聞かせ）、デイケア実習、開業医実習、各種レクチャーなど行っていますが、最終日のまとめをSignificant Event Illustration (SEI)、三つのレンズ（x400 x40 x4倍）、ACC CCの包括的ケアでディスカッションしています。

コミュニケーションの大切さや地域の文脈の理解、チーム医療の重要性を学んでいます。実習にご協力いただいている地域の皆様、訪問看護ステーションの皆様、開業医の先生方、指導医・スタッフの皆様、ありがとうございます！

講座のイベント情報

- 文科省事業 「ごちゃまぜ師」養成講座
Day4・5 12/9(土)～10(日)
場所：コテージ・ヒムカ
 - レジデントデイ
12/8(金) 16:00～ 場所：串間市民病院
- ※詳細はホームページやFacebookに順次アップします。

★総合診療専門医プログラム 来年度専攻医募集中★

宮崎大学 医学部 地域医療・総合診療医学講座

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200 TEL:0985-85-9809 FAX:0985-85-9805

E-Mail : chiikiiryo@med.miyazaki-u.ac.jp URL <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/community-medicine/>

